

2013. 12. 7.

おに図書館

No. 163

発行
おに図書館
代表
青木 和子
松本市牧の原 1-10-416
TEL 047-311-0886

投稿

イギリス公共図書館の始まり

イギリス在住 山本光子

イギリスの図書館史上、「公共図書館」という言葉は、貴族などの大邸宅の私設図書館に對立するものとして、利用料あるいは会費の有無を問わず、「公衆が共に利用する図書館」という意味で使われている。

イギリスで最初の公共図書館が出来たのは、125年といわれている。しかし、地方税を財源とする公立図書館がイギリスで設置されるようになったのは、1850年の「公立図書館法」の成立を待たなければなら

なかつた。

それまでの公立図書館には、

- ① 基金を財源とするもの
- ② 教会などの組織を基盤とするもの
- ③ 会費制のもの

①の例としては、1653

マンチェスターのキヤタム図書館がある。現存する同図書館は

英語圏で最古の無料公共図書館であり、また、ロンドンからやって来たマルクスが、マンチェスター在住のエンゲルスとの待

合わせの場所に使っていたことでも有名である。

②の例としては、1598

フランス・トリック・チエ

インド図書館がある。教会の牧師が、聖職者と地域住民のために始めたものである。「チエインド」というのは、蔵書が本棚と鎖で繋がりが、動かせる範囲が限定されていて、その範囲に備え付けられた書見台に本を置いて読んでいたからである。

1877年にスコットランドの或る聖職者は、50冊の本を集めて地域の村々の教会に分散させ、2年後にそれを順繰りに動かすという「巡回図書館」を始めた。1835年には、200冊を超える蔵書を4つの教会に巡回したという。

教会関連の図書館は、表向きに目的はキリスト教の教文を浸透させるものだが、集まってくる本をほぼ無差別に受け入れたりと、書籍の購入を奨励も含めて業者に任せたりで、様々な本が含まれていることが多かった。

誰もが無料で利用できることを

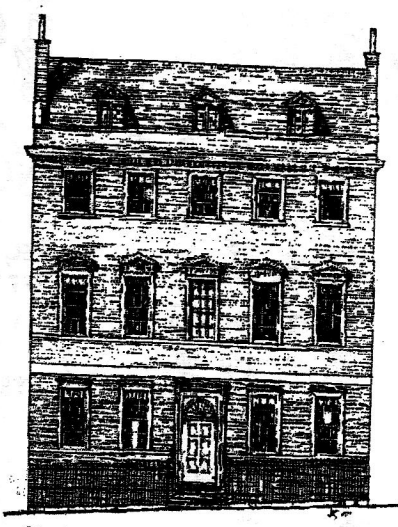
謳った、図書館の設置運動も、利用者負担の会費制図書館運動と同じく、中産階級の人々の運動であった。労働者階級を対象とした、中産階級の人々による博愛主義の考えが背景にあった。産業革命は中産階級の成長を促すとともに、労働者階級を成立させた。

農業を国の産業の基本とする社会から資本主義社会への移行で、それまでの下層階級の人々は、労働者として余暇をわずかながら享受するようになった。また、「手から口に直行」(労働の代価即労働のエネルギー源)だった収入にも、わずかながら余裕が出て来た。この二つの結果がもたらす弊害を心配したのは、中産階級の博愛主義者たちであった。彼らは、労働者たちが余暇をパブで過ごすことに危機感を持った。パブに代わる、労働者が余暇を過ごす場所として、図書館が考えられたのである。

る。その観点から、図書館が工場などの引けた後に利用できることは重要であった。

当初、公立図書館設立運動の先頭に立っていたのが、禁酒同盟の人たちであることから、これは明らかである。

すなわち、初めの頃の図書館運動は、中産階級の人々による労働者階級に対する啓蒙運動でさえなかった。



RAYBURY BUILDING, ANGIA DEN, NOTTINGHAM

右の挿絵は、会報160号で紹介した、ノッティンガム市に現存

する会費制図書館(私塾)「プロムニー・ハウス図書館」です。

現在は一階扉の両側の様子は変わって、右手には新聞・雑誌などを売る店、左手は子どもを対象とした慈善団体のチャリティー・ショップになっていきます。

この絵は、175年に建てられた当時のもので、195年頃までの様子だと思われています。



第53回

社会教育研究全国集会
千葉集会
報告 青木和子

8月3日(土)5日(月)、千葉大学教育学部など(千葉市)を会場にして開催されました。

主催の社会教育推進全国協議会(社会教)は、今年で創立50周年です。

社会教育推進全国協議会とは、人々の豊かな生活と文化を築く力を、学習活動、文化活動、スポーツ活動を通して育てていきます。

地域や職場で、くらしと権利を守る学びの場をつくり、公民館や図書館・博物館・スポーツセンターなどを充実させ、子どもの成長を支え、環境や健康を守り、福祉を充実させるなどの地域活動を支援していきます。

近年、様々な問題が広がる中で、学校教育と社会教育は、車の両輪として社会の大事なシステムであり、多種多様な場で学ぶことの意味、重要性が問われています。

第53回となる今集会のテーマは、「人をつなぎ、暮らしと地域をつむぐ」千葉の地で学びの力をた

しかめようとして、三日間にわたり、全体会や多くの学習会・分科会が開催され、全国から大勢の参加者が集いました。

8月4日(日)9時30分から16時30分まで18の分科会が開かれ、第15分科会に参加しました。

第15分科会

ほんとの図書館をのぞいて
一人ひとりのくらしに寄り添う図書館
「いまこそ問い直そう」
「のための、のための」
図書館かをくし

「以前にも増して、図書館の活動がマスコミに取り上げられることが多くなってきて、それらを見聞きする度に、何か違うような気がしてならない。そもそも、図書館は何のための、誰のたのにあるのだろうか？、そのことを抜きにして、図書館のことが取り上げられていて良

いのだらうか。「市民のための図書館」とは、本当はどんなものなのか。マスコミが持ち上げる図書館が、果たして良いものなのか。

図書館の意味とその可能性を知らしめた浦安の図書館が在る千葉県で開催される今集会では、皆さんとともに、いま一度、図書館のあるべき姿、誰のため何のための図書館かについて語り合いたい。このような主催側の呼びかけに心けて、全国各地の図書館職員・市民・学生が多数参加し、熱い議論を交わしました。

①基調講演「図書館が日本を救う！」
(常世田良氏・立命館大学教授)

②武雄市図書館・歴史資料館問題
「現地からの報告」
(井上一夫氏・武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会代表世話人)

③「図書館友の会全国連絡会の活動について」

(福富洋一郎氏・図書館友の会全国連絡会代表)

④「としよかんふれんず千葉市」の活動について

(石倉賢一氏・としよかんふれんず千葉市代表)

⑤参加者による自由討論

社会協への参加は初めてでしたが、会場が千葉大であったためか、学生さんの参加も多く、若者ばかりこそ新鮮で熱い意見が多く出されました。次世代への情報伝達の大切さを痛感させられました。

投稿

介護保険について思う事

伊藤和子

介護保険なるもの、なるべくな

ら、使わないで此のせとおさらばしたいと思っていました。が、人世そう甘くはなく、77歳になつて初めて、受ける身となりました。

この5月始め、急に足が重くなり、歩行不自由となりました。歩ける事だけが取柄の私ですから、すごいショックでした。

原因は、軽い脳梗塞をおこした故らしい。

これは長丁場になると覚悟し、歩行訓練をしてくれるデイサービスを受けたいと、初めて介護保険を申し込み、色々な手続きを経て、7月から週一回、送迎つきで通っています。お蔭様で

脚力の方はついてきて、大分遠くまで歩けるようになりました。が、フー／＼ヨロ／＼と気分が悪いのが治らず、もし途中でひっくり返ったら！と思うと、外出もままならず、閉口頓首です。

そんな訳で、初めて介護保険の仕組みに関わったのですが、何度同じ事を行政側・医者・ケアマネジャーその他に聞かれ、文書が行き交い、契約書という分厚いものは三ヶ月に一度更新との事。六ヶ月に一度にすれば事務量が減るだろうに、とか：文書の多さに驚きました。

国民から徴収した保険料なのだから、事務量を減らし、実質的な使い方をしてほしい。

例えば、独居老人宅には、一回一回で良いから、食事を届ける。野田市のような豆バスを走らせて足を確保する：等、今こそ「すぐやる課」の精神を取り戻して、高齢化社会へ立ち向かって下さい。書類は、食事を作ってはくれませんよ！

